

二〇二五年二月十日

「二時間遅れの登校になりました。」と、昨日

の午後、学校からリバーで連絡があった。  
八日（土曜日）の午後から九日（日曜日）の  
午前中にかけて、大雪が降ったからである。  
シンジヨは、土日、外に遊びに行けなく  
なった以上に、この雪にワクワクしていた。  
そういうえば、昨年と同じ時期に雪が降った。  
二時間遅れで登校したことで、雪合戦をクラス  
でしたことなどを覚えていいる。とても楽しか

った。そんなことを思い出すと、「二時間遅  
れ」の連絡があったことを母から聞いたとた  
んに、ワクワクが止まらなくなつた。また雪  
合戦ができる。夜もよく眠れないくらい、登  
校が楽しみになつていた。

二時間遅れで登校班の集合場所に行くとき、  
予想以上に雪が多いことにシンジヨは驚い  
た。通学班の子は、全員が長靴を履いている。  
班員が集まったことを確認し、学校に向かっ  
て歩き出したが、いつも以上に時間がかかっ  
た。途中、一年生が転びそうになつたが、一







相手チームに雪を当てられたら、三十秒お	今いるところが、自分のチームの陣地です。	ーンより、相手側に行っはいいけません。	「では、ルールを説明します。そのカラーコ	いた扇っ子は、移動を終えた。	る。あっという間に、それまで自由に遊んで	り聞いて行動できる、これも扇小の自慢であ	楽しいことが始まる前には、放送をしっか	側に、緑組の子は移動して下さい。」	て下さい。その反対側、校舎に向かって右	「校舎に向かって、左側に白組の子は移動し	止めて放送を聞いた。	校庭で夢中に遊んでいた扇っ子は、動きを	白組対緑組で行います。」	中央に並んでいるカラーコーンをはさんで、	「これから、全校雪合戦を行います。校庭の	生の声である。	十時三十分前に、放送が入った。体育の先	起こった。	任の背中に当たると、友達から拍手と笑いが	った。シンジヨ一の投げた渾身の雪玉が、担	走るだけで楽しかった。担任も一緒に走り回	ンジヨ一は、まず、雪合戦をした。雪の上を
---------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------	----------------------	----------------------	---------------------	-------------------	---------------------	----------------------	------------	---------------------	--------------	----------------------	----------------------	---------	---------------------	-------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------





